

スポーツ振興対策特別委員会資料

令和2年12月7日（月）

教育委員会

目次

今後の競技力向上の考え方について	1
------------------	---

今後の競技力向上の考え方について

スポーツ振興課

1 今後の強化事業や環境整備等について

(1) 基本方針

- ・ 天皇杯獲得を目指し、官民一体による競技力向上対策本部を設置し、「宮崎県競技力向上基本計画」(令和元年6月)に基づき、競技力向上に係る事業を積極的に推進する。
- ・ 競技団体・関係機関との意見交換等を踏まえ、7年後の宮崎国スポで天皇杯を獲得するための強化策を整理し、各事業に取り組む。
- ・ 平成30年度から国体開催までの期間を育成期、充実期、躍進期に区分し、それぞれの期間にあった対策を講じる。

※ 本県開催が2027年(R9)に延期となることから、今後の対策本部会議にて、競技力向上推進計画の期間や具体的な対策、目標順位等の見直しを行うこととしている。

〈期間毎の対策等〉※鹿児島国体延期決定前段階

	期 間	対 策	目標順位 目標得点
H30 R1 R2	育成期	○競技力向上対策推進体制の構築 対策本部を編成し、総合的な強化体制を整備し、 競技力向上の基盤整備を行う。	【R2】 30位台前半 (900点)
R3 R4 R5	充実期	○競技力向上体制の充実 指導者の確保・資質向上、ターゲットエイジの育 成・強化など、強化体制の充実を図る。	【R5】 20位台 (1,000点)
R6 R7 R8	躍進期	○競技力向上体制の確立 即戦力となる選手の確保、重点強化、会場地との 連携等による、強化体制を確立する。	【R8】 天皇杯獲得 (2,700点)

※ 基本計画では、大会終了後3年間を継続期とし、大会終了後も競技力の維持・継続を図る。

(2) 競技力向上対策の「4本柱」について

本県の競技力向上に向けた課題を解決し、取り巻く環境に対応した、以下の4つの対策を講じる。

- ① 推進体制の整備・充実
競技力向上対策を効果的に実施するため必要となる推進体制の整備・充実や関係団体間の連携強化を図る。
- ② 選手の発掘・育成・強化
少年、成年選手の発掘・育成・強化等を図るとともに、大会終了後も、継続可能な強化体制を構築する。
- ③ 指導体制の充実・強化
指導者の養成・資質の向上や一貫指導体制の確立など、計画的・効果的な指導体制の充実・強化等を図る。
- ④ 環境条件の整備
競技力向上対策を円滑・効果的に進めるため、練習環境の整備やサポート体制の充実等を図る。

(3) 練習環境（施設）整備について

① 基本計画

学校体育施設や公共施設等の[A]既存の練習環境を最大限活用して競技力向上に取り組むことを基本とするが、[B]日常練習に必要な施設が整備されていない競技や、[C]既存施設の規格等が基準に満たない競技、[D]既存施設の老朽化が著しい競技については、環境整備を行う必要がある。

② 整備の考え方

天皇杯獲得のために必要な練習環境整備として、競技団体等から要望のあったもののうち、宮崎国スポでの得点増加等の整備効果の見込まれるものについて、重点的に整備を行う。

③ 整備の内容

既 存 施 設		新 設 施 設
[現状] [A]活用可能	[現状] [C]規格等不十分 [D]老朽化・安全対策等	[現状] [B]施設なし
[整備内容] ・ 既存活用	[整備内容] ・ 自転車競技場改修(県総合運動公園) ※R2基本設計/R3実施設計/R4～R6整備 ・ バスケット床改修(小林高校等体育館) ※R2設計/R3整備 等	[整備内容] ・ 水球プール(宮崎工業高校) ※R2設計/R3～4整備 ・ アーチェリー場(延岡星雲高校) ※R2設計/R3整備 等

※今後の整備については、大会会場地の選定状況等を考慮しながら進めて行く。

(4) 特殊設備、競技用具について

① 基本計画

正式な試合に近い形で練習を行うことが競技力向上に効果的であることから、競技団体が整備することが困難な「特殊設備」や「特殊競技用具」については、今後計画的に整備していく必要がある。

② 整備の考え方

通常の競技力向上に必要な設備・用具の整備は、既定予算で対応するが、国スポに向け設備等がないもの、不足するもの、規格が合わないもの、老朽化で既定予算で賄えないものは、臨時的経費で対応する。

2 宮崎ワールドアスリート発掘・育成事業の概要と現状

- (1) 事業名 世界へはばたけ！ワールドアスリート発掘・育成プロジェクト
- (2) 事業開始 平成28年度
- (3) 事業目的 県内の体力・運動能力に優れた小学生を選考し、本県独自の育成プログラムにより、子どもたちの可能性を広げ、将来、本県や日本のリーダーとしてスポーツ界を牽引できる人材の育成を図るとともに、オリンピック競技大会等の国際大会におけるメダル獲得や本県開催の2027年国民スポーツ大会における天皇杯獲得に向けて、選手の発掘・育成を目指す。

○ 本県の事業モデル【種目適性型】

事前に特定の種目を決定せずに発掘し、多くの競技体験や横断的な能力開発・育成の後に自分の適性にあった競技種目に接続するもの。(まだ専門化していない運動能力の高い子どもを対象に、才能を見極め、専門競技種目を決めるプログラム)

○ 事業の構成

① オーディションプログラム

- ・ 1次オーディション (書類選考)
- ・ 2次オーディション
(体力運動能力テスト・動作コーディネーションテスト・作文)

② 育成プログラム ※月約2回の割合でプログラムを編成

- ・ 能力開発プログラム

コーディネーショントレーニング、SAQトレーニング、メンタルトレーニング、栄養学、コミュニケーション等

- ・ 競技種目体験プログラム (21競技)

スポーツクライミング、ウエイトリフティング、フェンシング、ホクシング、ボート、カヌー、ハンドボール、サッカーラグビー、ソフトボール、バレーボール、ホッケー、レスリング、セリング、ボウリング、陸上競技、水球、体操(トランポリン)、自転車、ライフル射撃、なぎなた

- ・ ファミリープログラム

食事・栄養指導や調理実習、心理学(メンタルトレーニング)等

- ・ 自宅課題プログラム

県公認アスレティックトレーナーの指導を受けた自宅でもできるトレーニング、ストレッチを日常生活で実施。

- ・ サマーキャンプ (小学5・6年生対象)

1泊2日の宿泊研修。集団生活を通してアスリートとして必要な資質を育む。

- ・ オリンピアン講話

令和元年度

- ・ デイジー・トロッター氏 (アテネ五輪・アメリカ代表 4×100mリレー 金メダリスト)
- ・ 三樹加奈氏 (リオ五輪・7人制女子ラグビー日本代表 宮崎県日向市出身)
※三樹氏の講話 (R2.3.14) は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止。

③ パスウェイプログラム

- ・ トライアウト (競技種目適性テスト) ※中学3年生で実施
- ・ ヒアリング ※中学3年生で実施
- ・ 修了生講話

- (4) 事業予算 23,473千円(令和2年度:改善事業2年目)
 (スポーツ推進基金15,473千円 スポーツ振興くじ助成金8,000千円)

(5) 在籍生・修了生

① 在籍アスリート生(令和2年度)

	小5	小6	中1	中2	中3	合計
男子	10名	14名	14名	13名	11名	62名
女子	10名	13名	13名	13名	14名	63名
合計	20名	27名	27名	26名	25名	125名

② 修了生(令和2年4月現在)

	第2回修了生 (令和元年度修了生)	第1回修了生 (平成30年度修了生)	合計
男子	12名	14名	26名
女子	11名	12名	23名
合計	23名	26名	49名

(6) 修了生における大会等結果(全国大会以上)

※ 別紙参照

(7) 修了生における本県強化指定校への進学状況

修了生	修了年度	性別	在籍者数	強化指定校 進学者数		強化指定校 進学率
第1回修了生	H30年度	男子	14名	4名	9名	34.6%
		女子	12名	5名		
第2回修了生	R1年度	男子	12名	5名	10名	43.5%
		女子	11名	5名		

＜修了生等各種大会・代表候補等詳細＞

年度	区分	性別	所属学校	学年	競技名	継続/転向	大会・代表候補選手等	種目等	結果
平成30年度	在籍生	女	宮崎市立大宮中学校	2年	ハンドボール競技	継続	ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト（1期生）	ハンドボール検証合宿参加	1年間検証
	在籍生	女	延岡市立東海中学校	3年	ハンドボール競技	転向	ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト（2期生）	ハンドボール検証合宿参加	1年間検証
	在籍生	女	延岡市立東海中学校	3年	7人制ラグビー競技	転向	ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト（2期生）	7人制ラグビー検証合宿参加	1年間検証
	第1回修了生	女	高鍋高等学校	1年	ホッケー競技	転向	令和元年度全国高等学校総合体育大会ホッケー競技	登録選手	予選敗退
	第1回修了生	女	宮崎南高等学校	1年	フェンシング競技	転向	令和元年度全国高等学校総合体育大会フェンシング競技	女子フルーレ	予選敗退
	第1回修了生	男	小林秀峰高等学校	1年	ハンドボール競技	継続	令和元年度全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技	登録選手	3回戦敗退
	第1回修了生	女	那紫女学園高等学校	1年	陸上競技	継続	令和元年度全国高等学校総合体育大会陸上競技	女子4×100mR（出場）	予選敗退
	第1回修了生	女	小林高等学校	1年	陸上競技	継続	第31回全国高等学校駅伝競走大会	登録選手	33位
	第1回修了生	女	小林高等学校	1年	ウエイトリフティング競技	転向	第11回全日本女子選抜ウエイトリフティング選手権大会	高校49kg級	7位
	第1回修了生	女	都城工業高等学校	1年	自転車競技	転向	2019年JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会	U17女子ケイリン	3位
令和元年度	第1回修了生	女	小林高等学校	1年	自転車競技	転向	2019年JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会	U17女子スプリント	1位
	第1回修了生	女	小林高等学校	1年	ウエイトリフティング競技	転向	2019年JOCジュニアオリンピックカップ第40回ウエイトリフティング競技大会	女子49kg級	8位
	第1回修了生	男	宮崎南高等学校	1年	フェンシング競技	転向	2019年JOCジュニアオリンピックカップ第27回フェンシング競技大会	カデ男子サーブル	75位
	第1回修了生	女	宮崎南高等学校	1年	フェンシング競技	転向	2019年JOCジュニアオリンピックカップ第27回フェンシング競技大会	カデ女子フルーレ	61位
	第1回修了生	女	小林高等学校	2年	ウエイトリフティング競技	転向	令和2年度全国高等学校ウエイトリフティング競技通信記録大会	女子49kg級	3位
	第1回修了生	女	都城工業高等学校	2年	自転車競技	転向	2020 JCSPAジュニアサイクルスポーツ大会全国大会	女子500mタイムトライアル	5位
	第1回修了生	女	富島高等学校	2年	7人制ラグビー競技	転向	第3回全国U18女子セブンズラグビーフットボール大会	登録選手（出場）	10位
	第2回修了生	女	富島高等学校	1年	7人制ラグビー競技	転向		登録選手（出場）	
	第1回修了生	女	都城工業高等学校	2年	自転車競技	転向	2020年JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会	女子ジュニア500mタイムトライアル	10位
	第1回修了生	女	都城工業高等学校	2年	自転車競技	転向		女子ジュニアケイリン	6位



3 未普及競技の現状について

未普及競技：第81回国民スポーツ大会において、本県で開催予定の国民体育大会正式競技のうち、本県中学校に部活動のない競技（一部種目） ※第81回国民スポーツ大会で未実施予定のクレー射撃は除く。

国民体育大会正式競技（全41競技）	
未普及競技（全16競技）	それ以外
水球(*)、ボート、ホッケー、レスリング、セーリング、ウェイトリフティング、自転車、馬術、フェンシング、ライフル射撃、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、なぎなた、ボウリング、銃剣道	陸上競技、水泳(*)、サッカー、テニス、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、ハンドボール、ソフトテニス、卓球、相撲、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、剣道、ラグビーフットボール、空手道、ゴルフ、トライアスロン（成年のみ）、クレー射撃、スキー、スケート、アイスホッケー
*水球は水泳競技の中の一項目	

(1) 過去3ヶ年の国民体育大会における総得点に占める未普及競技の獲得点数・割合の推移と天皇杯獲得都県との比較（単位：点）

		第72回愛媛大会（H29） 天皇杯獲得都県：東京	第73回福井大会（H30） 天皇杯獲得都県：福井	第74回茨城大会（R1） 天皇杯獲得都県：茨城
水球	天皇杯獲得都県	25	0	30
	本県	0	0	0
ボート	天皇杯獲得都県	149	274	12.5
	本県	0	0	0
ホッケー	天皇杯獲得都県	10	206	90
	本県	0	0	0
レスリング	天皇杯獲得都県	63	53	50.5
	本県	11	10.5	15
セーリング	天皇杯獲得都県	44	69	37
	本県	12	3	3
ウェイトリフティング	天皇杯獲得都県	71	97	90
	本県	40	46	19
自転車	天皇杯獲得都県	70	112	104
	本県	3	0	5
馬術	天皇杯獲得都県	50	92	131
	本県	0	0	6
フェンシング	天皇杯獲得都県	91	67	31
	本県	0	0	0
ライフル射撃	天皇杯獲得都県	55	71	36
	本県	16	12	11
スポーツクライミング	天皇杯獲得都県	76	85	106
	本県	0	0	0
カヌー	天皇杯獲得都県	70	103	60
	本県	39	48	49
アーチェリー	天皇杯獲得都県	67	40	25
	本県	0	0	0
銃剣道	天皇杯獲得都県	10	H30、R1は、未実施	
	本県	0		
なぎなた	天皇杯獲得都県	19	85	76
	本県	0	0	0
ボウリング	天皇杯獲得都県	64	40	28
	本県	0	0	0
天皇杯獲得都県	総得点	2,535	2,896	2,569
	未普及競技得点	934	1,394	907
	割合	36.8%	48.1%	35.3%
本県	総得点	702 (44位)	780.5 (39位)	718 (41位)
	未普及競技得点	121	119.5	108
	割合	17.2%	15.3%	15.0%

(2) 県内における現在の普及状況

(単位：人)

競技団体	競技人口														指導者数	
	幼児		小学生		中学生		高校生		大学生		一般		合計			
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子				
1 水球	0	0	3	0	4	2	10	1	0	1	0	1	0	1	22	10
2 ボート	0	0	5	0	3	2	32	25	14	23	5	1	1	110	12	
3 ホッケー	0	0	9	5	0	0	39	35	0	0	25	16	129	12		
4 レスリング	6	5	56	18	12	4	90	14	8	0	0	0	213	9		
5 セーリング	0	0	0	0	0	1	11	4	12	10	11	3	52	6		
6 ウエイトリフティング	0	0	0	0	0	0	24	14	0	0	28	2	68	5		
7 自転車	0	1	7	0	11	2	23	10	7	1	23	3	88	4		
8 馬術	0	0	0	0	3	2	2	3	6	10	22	12	60	2		
9 フェンシング	0	0	7	7	3	3	13	8	2	5	3	6	57	10		
10 ライフル射撃	0	0	1	0	0	1	4	1	0	1	17	7	32	2		
11 スポーツクライミング	0	0	2	0	1	3	1	0	10	0	16	7	40	35		
12 カヌー	0	0	6	4	4	2	52	18	5	3	1	2	97	5		
13 アーチエリー	0	0	1	1	3	6	4	9	0	0	16	4	44	10		
14 銃剣道	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	504	0	508	13		
15 なぎなた	0	0	0	1	0	6	6	28	0	1	1	21	64	12		
16 ボウリング	0	0	1	0	4	1	4	2	0	0	123	32	167	17		

※ 競技人口については、令和元年度競技団体ヒアリング登録状況によるもの
 ※ 指導者数については、令和元年度公益財団法人宮崎県スポーツ協会公認スポーツ指導者登録状況によるもの

(3) 未普及競技の現状（練習施設、大会成績、有望指導者、普及・強化策等）

競技名	ジュニアクラブ等			2019茨城国体獲得点数	県内の主な指導者	普及・強化に向けた具体策・構想			第81回国スポ開催市町村	〇強化拠点施設・・・(拠)		
	活動団体(練習場所)	指導者	主な実績			ひむかサンライズプロジェクト事業				〇高校強化指定校・・・(指)		
						事業実施主体	連携団体	事業対象地域		〇高校部活動設置・・・(部)		
1	水球	宮崎市：ビートスイミングクラブ(宮崎工業高、ビートスイミングクラブ)	児玉悠太		宮本真裕(宮崎工業高) 児玉悠太(宮崎工業高) 串間勇哉(高鍋農業高)	ビートスイミングクラブ(民間クラブ)	県水泳連盟 宮崎工業高校 宮崎工業水球部OB	宮崎市	宮崎市	(拠)宮崎工 (指)宮崎工 (部)宮崎工		
2	ボート	新富町：新富漕艇クラブ(新富町漕艇場)	阿部和義	遊亀生瑛 全九州小中学生大会中学男子シングルス3位 大川良祐 全九州小中学生大会中学男子シングルス3位 出井紀加里 全九州小中学生大会中学女子シングルス優勝	柴田友輔(高鍋高) 柴田美穂(妻高)	宮崎県ボート協会	小林市・新富町・西都市スポーツ協会 高体連専門部	新富町 小林市 西都市	新富町	(拠)新富町富田浜、小林市小野湖 (指)高鍋・妻 (部)高鍋・妻		
3	ホッケー	高鍋町：NPO法人オールスティッククラブ(高鍋高、門川高)	岩田慎二		岩田慎二(門川高) 高木美里(高鍋高)	NPO法人オールスティッククラブ(民間クラブ)	県ホッケー協会 高体連専門部	宮崎市 高鍋町 門川町	都農町	(拠)県総合運動公園補助競技場 (指)高鍋 (部)高鍋・門川・延岡工		
4	レスリング	宮崎市：宮崎イースト(宮崎東高、宮崎農業高)、フェニックスキッズ(宮崎工業高) 都城市：都城ウェルネスクラブ(早水体育文化センター) 日南市：日南レスリングクラブ(日南市多目的体育館) 串間市：串間グリーンフォース(福島高)	各チーム代表者	成年男子 7.5点 少年男子 7.5点	濱上 稔(日南振徳高)長友辰雄(福島高) 柴田慎吾(宮崎工業高)長尾勇気(都城西高)	(一社)串間スポーツクラブ(総合型SC)	県レスリング協会 串間市体育協会 福島高校	串間市	日南市	(拠)福島高校 (指)福島・宮崎工・宮崎日大 (部)県内8校		
5	自転車	宮崎県ジュニアサイクルクラブ(県総合運動公園自転車競技場、宮崎農業高、都城工業高、延岡学園高)	岩倉稔典	藤村一馬(中3) JOCジュニアオリンピックカップU-172種目入賞 村山健太郎(中2) JOCジュニアオリンピックカップU-153km追い抜き3位	大庭伸也(都城工業高) 坂本佳哉(宮崎農業高)	一般社団法人とみさか(総合型SC)	都城市スポーツ振興課 県自転車競技連盟 都城工業高校	都城市	宮崎市	(拠)県総合運動公園自転車競技場 (指)都城工 (部)都城工・宮崎農・延岡学園		
6	フェンシング	宮崎市：宮崎ジュニアフェンシング少年団(加納小・加納中)	西山瑞恵 本假屋茜		西山瑞恵(穂中)本假屋茜(明星視覚支援) 濱上紀子(宮崎南高) 永田 峻(本庄)	宮崎県フェンシング協会	高体連専門部 宮崎ジュニア少年団	国富町 宮崎市	国富町	(拠)アリーナくにとみ他 (指)宮崎南 (部)宮崎南・本庄		
7	スポーツクライミング	延岡市：インテンス(個人ジム) 宮崎市：プレスファクトリー(個人ジム)、スムージー(個人ジム) 都城市：Qブロック(個人ジム)	インテンス 藤平隆之		下村真一(都城泉ヶ丘高)	宮崎県山岳・スポーツクライミング連盟	県各体連 4ジム 2施設	宮崎市 木城町 日南市他	木城町	(拠)宮崎県体育館他 (指)なし (部)各高校山岳部		
8	カヌー	宮崎市：宮崎ジュニアカヌークラブ(大淀川河川敷)	眞鍋佳奈芽	日高翔斗(中1)中野敬介(中1) 九州スプリット選手権兼九州中学校大会 カヌーイアム2位 村橋穂香(中2) 九州スプリット選手権兼九州中学校大会 カヌーシング2位	成年男子 5.0点 成年女子 21.0点 少年男子 16.0点 少年女子 7.0点	末安純平(宮崎商業高) 阿部祥子(宮崎大宮高) 大園政伸(宮崎工業高) 宮田優志(大淀中)	宮崎ジュニアカヌークラブ(総合型SC)	うずらaiクラブ 県カヌー協会 宮崎商業高校 宮崎大宮高校	宮崎市 新富町	未定	(拠)大淀川・富田浜漕艇場 (指)宮崎大宮・宮崎商 (部)宮崎大宮・宮崎商・宮崎工	
9	アーチェリー	宮崎市：まっぼすクラブ(宮崎市総合体育館弓道場) 延岡市：延岡市アーチェリー協会(延岡市アーチェリー場)	眞方佑輔 中村克幸		近藤伸哉(延岡星雲高)	宮崎県アーチェリー協会	延岡星雲高校 日本体育大学	延岡市	高原町	(拠)延岡星雲 (指)なし (部)延岡星雲・聖心ウルスラ		
10	なぎなた	宮崎市：宮崎市スポーツ少年団(宮崎県体育館) 日向市：日向市スポーツ少年団(日向市武道館)	黒木裕子 黒木靖恵		草野夕梨(宮崎南高) 宮森洋子(県なぎなた連盟)	宮崎県なぎなた連盟	高体連専門部	宮崎市 日之影町	日之影町	(拠)宮崎県武道館 (指)宮崎南 (部)宮崎南・鷗翔		
11	ボウリング	宮崎市：みやざき中央スポーツクラブ(宮崎エースレーン)	山本由美子		山本由美子(プロボウラー)	宮崎県ボウリング連盟	ジュニアクラブ	宮崎市	宮崎市	(拠)宮崎エースレーン (指)なし (部)なし		
12	セーリング	宮崎市：宮崎ジュニアヨットクラブ(サンマリーナ宮崎)	廣池達哉	少年男子 3.0点	平島 昇(日南振徳高) 廣池達哉(宮崎海洋高) 汐口貴広(宮崎海洋高)	宮崎市や日南市において、体験会などを開催し、選手の発掘に努めている。宮崎のジュニアクラブには小学生1名しかいない。日南市では、ジュニアクラブ設立に向け観光スポーツ課と協議を進めている。		日南市	(拠)大津津ヨット競技場 (指)日南振徳・宮崎海洋 (部)日南振徳・宮崎海洋			
13	ウエイトリフティング	ジュニアクラブチームなし		成年男子 6.0点 少年男子 10.0点 女子 3.0点	内之倉和彦(小林高) 才田吉弘(小林秀峰高)	現在、ジュニアクラブチーム等がなく、選手の発掘・育成が行えていない。中学卒業後に、他競技からの転向選手を育成し、強化している。		小林市	(拠)県総合運動公園合宿所体育館 (指)小林・小林秀峰 (部)小林・小林秀峰・佐土原・高鍋農・宮崎海洋			
14	馬術	綾町：綾町スポーツ少年団(綾馬事公苑) 宮崎市：宮崎育成牧場スポーツ少年団(JRA育成牧場)	松田麻実 末吉 忍 秋山康次郎	成年男子 2.0点 少年 4.0点	松田靖久(本庄高) 石川一成(綾馬事公苑)	現在の小中学生選手は増えてきつつある。既存事業で選手育成と強化に取り組んでいる。馬という特殊用具を使った競技であるため、組織体制なども含め既存の事業実施が限界である。		綾町	(拠)綾馬事公苑 (指)なし (部)宮崎大宮・本庄			
15	ライフル射撃	宮崎市：宮崎さんさんシューターズクラブ(県ライフル射撃場)	大木和宏 横山 博 川崎清次	成年女子 11.0点	横山 博(ライフル射撃協会) 川崎清次(ライフル射撃協会)	今年度7月から体験会を実施し、興味のある10名がクラブへの入会を決め、10月にジュニアクラブチームが立ち上がった。選手育成に取り組みはじめたばかりである。		未定	(拠)県ライフル射撃場 (指)なし (部)宮崎日大			
16	銃剣道	ジュニアクラブチームなし				現在、ジュニアクラブチーム等がなく、選手の発掘・育成が行えていない。都城自衛隊との連携を図り、選手発掘・育成を模索している。		三股町	(拠)都城自衛隊駐屯地 (指)なし (部)なし			